

一部の事項は時間の都合で翌日午後の共同討議のあとにひきつがれ、そこで討議決定された（座長有賀教授）。

第一日。最初事務局の川越（愛知大学）から、本年度の事務ならびに会計報告があつてこれが承認された後、中野氏（東京教育大）から年報課題委員会の活動状況、および年報「戦後農村の変貌」の編集発刊についての報告がなされた。つづいて来年度に関する事項の審議にうつり、最初に新事務局は中央大学の島崎、田野崎両氏に担当してもらうよう提案があり、両氏の承諾を得て、期待の拍手とともに決定をみた。つづいて来年度の大会開催地については、従来の方式にしたがつて東京と決定（ただし会場引き受け校は未定）。に年報課題委の構成については討議されたが、ともに決定をみた。つづいては討議されたが、時間の都合で翌日に持ちこされた。

第二日。午後の共同討議のあと、まず来年度の共通課題について討議された。前日の「本年度課題の継続」「村落共同体と家」などの意見に加え、「農村調査の方法」「行政の村落、または「村落と政治体制」などの提案が話し合われた結果、挙手多数で「村落と政治体制」（ただし詳細の確定は課題委員会に委託のこと）と決定された。

つづいて年報課題委員については、委員会開催の際の出席の便宜は一応考慮されるけれども、委員はむしろ東京在住者に限らない方がよい。委員には本年度大会の状況を十分疎知している人になつてもらうことがよい、などとの理由で、本年度大会の司会者全員に委員と

総会記事

一九五八年度総会は鳴子温泉での第六回大会の第一日の午後終日にわかつた研究報告の終了後、木下教授を座長としてひらかれたが、

なつてもらうことを決定した。それはつきの方々である（頗不同）。

有賀喜左衛門 木下彰 喜多野清一 小池基之 中村吉治 米林富男 大山彦一 内藤完爾 福武直 竹内利美 なお右の人々は実質上一体となつて年報および課題委員会を兼ねるのであるが、

年度の課題内容を顧慮した場合課題委員会には行政学、法社会学関係の人々に一、二名加わつてもらうことが望ましいといふ提案（竹内氏）があり、これも異議なく了承、人選は委員会に一任することとなつた。

引きつゞき運営、事務分担等についても話し合われ、委員会の招集、年報編集事務は事務局で行なうことを確認した。ただし、年報事務は從来年度を重ねて東京教育大の中野、森岡両氏を煩わしており、これに対しても感謝する他はないが、対出版社関係の仕事は特殊な性質をもつてゐるので、この方は今後も引きつゞき両氏に協力分担してもらうことに了承決定をみた。最後に年報出版社の時潮社側における出版継続の困難の問題が、中野氏を通じて訴えられ、種々論議されたが、今後もも善処を考慮することとして、総会を終つた。

総会の経過および協議決定事項の概要是以上のことよりであるが、本年度大会は特に東北で行われたので、インフォーマルな部分（？）やコミュニティケーションが十分にできたこと、も特記すべきであらう。本会発足当初の仙台

大会で、大会全体をつつんでいた親密な雰囲

高橋明善 東京大学教養学部助手

方

気が拡大されて復活したと感じた人は少なくなかつたとおもう。大会で充実した報告とさ

野呂善造 東京都品川区北品川三の三一六森方
青森県立農業講習所

かんな討論の展開がみられたことと共に、それを深く感謝したい。（後藤 記）

武山 智 N H K 社会部農業課
松本通晴 同志社大学文学部助手

東京都品川区小山三の一〇一荏原寮
京都市左京区一乗寺且ノ西町一一
塙田方

十月二十二日、本郷において、有賀喜左衛門・中村吉治・小池基之・福武直・中野卓・蓮見音彦・事務局から、島崎穂・田野崎昭夫出席のもとに、拡大委員会が開かれた。議題および決定事項は次の通りである。

○年度・課題委員会記事

1. 村研年報の発行について

東敏雄 東北大學經濟學部

仙台市片平丁東北大學經濟合同研究室
山下製織男 東洋大學

千葉県柏市旭町二の八四四
大津昭一郎 東洋大學

東京都葛飾区金町五の三二四
阿部徳三郎 山形大學文理學部

山形県東田川郡三川村三本木
田中幹夫 東北大學教育學部

仙台市長野八幡前一の七

2. 第六回大会の共同討議の録音について
現事務局の手で文書化し、コピーを発言者に回覈し、訂正後、年報委員が決定し、執筆を依頼

3. 来年度の年報編輯について
年報卷末に掲載する。

鈴木栄太郎 東京都北多摩郡柏江町

覚東字三島三四〇
(官城農協連一万円)
(第七十七銀行四千円)

才六回大会特別会計報告

☆収入の部

大会参加費 一六五〇〇円
(三〇〇円×五五人)

特別寄附 一四〇〇〇円

△計▽ 三〇五〇〇円

☆支出の部

新入会員（頗不同） 一七二六五円
宿舎謝礼 二七五五円
(以下次頁上段へ)

会員費
会務費

十九日
五百〇〇円

テープその他の費
五六十円

八計
四〇〇〇円

No二六、二七、二八各千五百円
No二九
二千五百円
四〇〇〇一

研究費

大会プログラム
二二五〇一

研究費
二六〇〇一
六五〇一

通信費
研究通信発送費
五六〇〇一

（八円×一七五×四）
アンケート発送費
三一五〇一

（一〇円×一七五）
（八円×一七五×四）
大会準備通信費
一六七五一

（八円×一〇〇）
（五円×一七五）
事務局連絡通信費
一七一四一

（八円×一〇〇）
（五円×一七五）
年報委員会
一七一四一

（八円×一〇〇）
（五円×一七五）
謝金
一七一四一

セ〇〇一
一五〇〇一
一

田刷費
研究通信四回

